

令和7年度「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」

第32期研究員募集のご案内

保育・幼児教育、学校教育に携わるみなさんへ



相手を尊重する姿勢で人と関わるために

「子どもの心に寄り添うカウンセリング研究会」は、令和7年度で32年目を迎えます。

研究アドバイザー（臨床心理士等）の講義とロールプレイ等の演習、グループ協議を通して、保育士・教諭のみなさんが互いの実践現場での様々な課題について話し合います。グループは年間を通して同じメンバーですので、仲間づくりにもつながったという声もいただきます。

毎回の研究会の感想や各園・学校での取組について往還的に対話を重ねることで、「傾聴・共感・寄り添い」といった「援助的コミュニケーション」の力を磨き、日常の保育・教育に生きる研究会です。

参考 令和6年度第31期生研究員の感想より（幼保小担当で意見をまとめています）

「なぜ、この子はこんなことをしたのだろう」
「保護者は何に対して怒っているのだろう」
と見立てを立て、話を聴くことが、対人援助において大切なことだと学んだ。

保健相談活動や子どもから事情を確認する際、相手からも、私自身が非言語の発信をキャッチされていることをより意識して対話することを心がけるようになった。

最初の研修で学んだ「to be not to do」が印象的だった。ただ側にいて見守ること、声掛けのタイミングを図ること、言葉を掛け過ぎないことでその子が安心して過ごせることを学んだ。

「こちらから話をするのが、相手の思いを引き出す方法のすべてではない」ということを学んだ。言葉以外の非言語的な表出にも注目し、観察していく時間も大切なカウンセリングなのだと知った。

相談者の話の「間」も、思考の一部と捉えることができるようになった。

